

天日 公子

〔民主クラブ〕

子宮頸がん予防対策は

問 早期発見に向けた対策と課題は。

答 満20歳以上を対象に子宮頸がん検診を実施。20歳から40歳までの5歳刻みの検診無料クーポン券の交付。検診体制では集団検診と個別検診の実施。個別検診の実施機関に今年度より富良野協会病院を加え受診機会の充実を図っている。無料クーポン券利用率30パーセントと低い状況にあり、受診拡大に向けた取り組みを進める。

問 今年4月から定期接種となった子宮頸がん予防ワクチンを現在積極的に勧めない理由は。

答 本年6月14日に国の予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会において、ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛（とうふう）がワクチン接種後に特異的にみられ、副反応の発生頻度がより明らかになったから、国民に適切な情報提供

ができるまでの間、子宮頸がん予防ワクチンの定期接種を積極的に勧奨すべきでないと考え、市町村に勧告された。

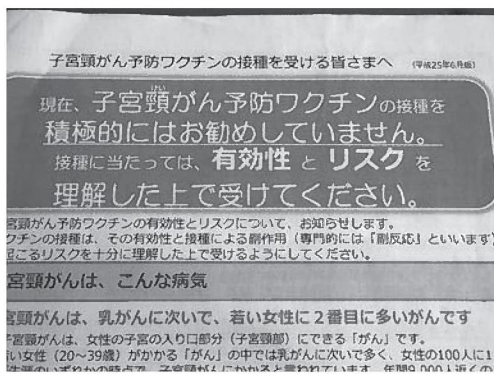
問 接種状況と副反応は。

答 平成23年度は中学1年生から高校2年生の女子550人1608回、平成24年度は111人303回の接種。接種対象者が未成年であることから保護者の同意を得て実施。副反応の報告は受けていない。

問 子宮頸がんの接種と同時に性教育が大事ではないか。正しい知識の啓発は。

答 広報・ホームページ・ラジオ等を利用し情報提供を図る。△その他の質問▽

◇介護保険事業について



子宮頸がん予防啓発パンフレット

小林 裕 幸

〔ふらの未来の会〕

居住人口の維持と少子高齢化対策は

問 若年層の流失対策のひとつ企業誘致の活動状況は。

答 製造業などの新たな誘致は非常に厳しい。福祉分野や農業の生産法人化や観光振興策による雇用拡大を推進している。また、市内企業のご協力を頂き「ふらの就職応援フェア」を開催している。

問 「婚活」の活動、イベントを積極的に行っては。

答 農業の担い手対策のひとつとして、農業青年を対象にアグリパートナー協議会で、パートナーとの出会いの機会の創設をはかるとともに、富良野、山部、東山の各地区に4名の女性相談員を配置し、婚活の支援を行っている。また、昨年度から「出会い」「交流」「企画実践の場」として「ふらの青年塾」の活動を通じ結果的に良きパートナーを見つけ出すことのきっかけ

くりが大切と考えており、その成果を期待する。結婚を直接的に意識させる活動やイベントは考えてはいない。

移住定住促進についての空き家活用対策は

問 空き家を活用するための「富良野の住まい情報バンク」登録拡大の取り組みの考えは。

答 連合会長会議などの機会を通じて空き家情報の提供を依頼している。また、「富良野の住まい情報バンク」の登録に関しては、今後とも情報提供の依頼や情報収集を行うとともに、市内関係機関と情報交換を行い、充実した情報発信が行えるように努めていきたい。



リフォームされた空き家住宅